NPO 法人 野生生物調査協会　第 21 回シンポジウム

■テーマ：　里の自然と都市の自然～人はどのように関わっていくか
■日　時：　２０２６年 12 月 11 日（金）　13 時 15 分～16 時 30 分
■場　所：　調布市文化会館［たづくり］８階 映像シアター　（裏面地図参照）
　　東京都調布市小島町２丁目３３−１　tel：0424-41-6111
　　With Zoom ミーティング
■主　催：　ＮＰＯ法人 野生生物調査協会　教育研修委員会

■プログラム：

13:05　開場（受付）
13:15　シンポジウムの注意事項
13:20　開会／開会挨拶
13:25　協会活動紹介
「専門分野研修活動報告　　しださがしもどき」　　合田爽馬（株式会社エコリス）（25 分）

13:55～16:10　講演（プログラム順序は変更する場合があります）

「都市部の植物？」　　志賀弘貴（株式会社環境指標生物）　（25 分）
「放棄されたダメダメな里山に手を入れてみました！」　　佐竹一秀（株式会社エコリス）　（25 分）
～　　休憩 10 分程度　　～
「都市における生物多様性の保全と創出事例」　山崎裕志（世田谷区生物多様性アドバイザー）　（25 分）
「生物多様性を支える見えない力～中間支援の役割～」
　　柴崎千賀子（認定 NPO 法人しずおか環境教育研究会（エコエデュ））　（25 分）
「地球環境基金の助成による BEE HOTEL 普及啓発活動」　村尾竜起（株式会社地域環境計画）　（25 分）

16:15　閉会／閉会挨拶／懇親会のご案内
16:30　閉場（完全撤去）

■ 申し込み方法 ■
必要事項を記入の上、１２月９日（水）までに、各社教育研修委員、もしくは、下記宛先までお申し込み下さい。会場参加・Web 参加、及び懇親会参加をお知らせ下さい。
・宛先　hase@npo-wildlife.com
　　ＮＰＯ法人 野生生物調査協会　担当：長谷(はせ)
・記入事項：氏名、所属、連絡先（メールアドレス：Web 参加の場合資料送信のため）
　　表題「第 21 回シンポジウム　参加」

■懇親会：
終了後、懇親会を開催します。（17:00～19:00）
　場所：　渝園　（地図参照）　　エレベータ混雑の可能性あり。階数は当日ご案内
　参加費：会員外 一般 3,000 円　　学生 無料　　会員は後日会社に請求します。（割り勘です）
　　※※　シンポジウムのみの参加は無料です。

活動報告

「しださがしもどき」　合田爽馬（株式会社エコリス）・志賀弘貴（株式会社環境指標生物）

教育研修委員会としては初めてとなる野外研修（技術研究会では実施したことがある）のご報告。実施場所は福岡県背振山地、しださがしのライターである金光様のご案内で、シダ植物（特にイヌワラビ類）の難しいところをメインに、やさしく教えていただきました。

シンポジウムプログラムの概要

「都市部の植物？」　**志賀弘貴（株式会社環境指標生物）**

都市の植物、およびそこを基盤とする生態系について。

「放棄された里山に手を入れてみました！」　**佐竹一秀（株式会社エコリス）**

1950 年頃に仙台平野のなかの丘陵地に 3 軒で入植。2010 年頃からは人の手が全く入らず、放棄されたダメダメな里山です。4 年前から手を入れてみました。戦いの最中ですが、経過報告です。

「都市における生物多様性の保全と創出事例」　**山崎裕志（世田谷区生物多様性アドバイザー）**

都市域においても大規模な緑　地や河川敷などは多様な生きものの生息地して認知されており、身近な自然との触れ合いの場として活用されているが、小規模な公園や空き地、道路際などの街中の小さな緑地は生きものの生息地として十分に認知されていない場合が多い。

本発表では、屋敷跡を公園とした小規模な緑地である「世田谷区立すみれば自然庭園」で行っている生物多様性の保全・創出とその活用等に関する取り組みついて紹介する。

「生物多様性を支える見えない力～中間支援の役割～」

柴崎千賀子（認定 NPO 法人しずおか環境教育研究会（エコエデュ））

静岡市街からほど近い場所にある静岡県所管の里山体験学習施設「遊木の森」。ここでは行政・企業・NPO が連携して森を再生しています。5 年間の実践から企業の活動を支援する環境 NPO の役割について紹介します。

「Bee Hotel を活用した送粉者（ポリネーター）の環境教育～これまでの実践と課題、今後の展望～」

村尾竜起（株式会社地域環境計画）

送粉者とは、植物の花粉を運び受粉を助ける動物を指す。生態系の維持や農業において重要な存在であるが、ミツバチ以外の認知度は低い。その存在や重要性等を広く伝えるため、Bee Hotel（ハチのための人工巣箱）を用いた環境教育を行っている。本発表では、これまでの活動成果や課題、および今後の展望について報告する。

会場地図

